

「五千人に食べ物を与える」

2023年05月03日

というのは、五千人ほどの人がいたからである。イエスは弟子たちに、「人々をおよそ五十人ずつひとまとまりにして座らせなさい」と言われた。弟子たちは、そのようにして皆を座らせた。イエスは五つのパンと二匹の魚を取り、天を仰いで、それを祝福して裂き、弟子たちに渡しては群衆に配らせた。人々は皆、食べて満腹した。そして、余ったパン切れを集めると、十二籠あった。（ルカ9：14～17）

「神の国」の宣教に遣わされた弟子たちは、病気を癒やす力と権能を与えられていたので、大きな成果を上げることができた。主イエスの所に戻って、喜びの宣教報告をした。彼らは皆、成果に興奮し、そして、疲れていた。主イエスは彼らに休息を与えようと、ベトサイダという町に向かった。ところが、主イエスの言葉と癒しを求める民衆はベトサイダに向かったと知って、後を追った。主イエスは、この人々を迎え、神の国について語り、病む人を癒やされた。日が傾きかけてきたので、12弟子たちは主イエスの下に来て、「群衆を解散し、周りの村や里に行って宿をとり、食料を調達するようにさせてください。私たちはこんな寂しい所にいるのです」と言った。彼らは、民衆の食事のことを心配しているようであるが、実際は、疲れ切っているので、民衆を解散させて、休みをくださいと言っているのである。弟子たちの要望に対し、主イエスは、「あなたがたの手で食べ物を上げなさい」と言われた。弟子たちは、「私たちには、パン五つと魚二匹しかありません。まさか、私たちが、この民みんなのために食べ物を買に行けとでもいうのでしょうか」と答えた。この時、五千人ほどの群衆がいたことを、彼らは知っていた。これだけ大勢の群衆のために、食べ物を調達し、与えよという言葉に、弟子たちは啞然とした。

主イエスは、「人々をおよそ五十人ずつひとまとまりにして座らせなさい」と言われたので、弟子たちはそのように、群衆を座らせた。主イエスは五つのパンと二匹の魚を取り、天を仰いで、それを祝福して裂き、弟子たちに渡して、群衆に配らせた。すると、人々は皆、食べて満腹した。更に、余ったパン切れを集めると、十二籠もあった。現実的にはあり得ないことであるが、考えられるのは、下記のような経緯であろう。当時の人々は旅に出る時は、パンと干魚の弁当を用意して出かけた。もちろん、弁当を用意している人と、していない人がいたであろう。彼らは、主イエスから「神の国」についての教えを聞いた。それは、足りない物を補い、分かち合って共に生きる所が「神の国」であると話され、群衆は、その教えに感動した。食事をしようという時、弁当を持ってきた人は持って来なかった人に、自分の物を惜しげもなく、分け与えた。彼らは皆、満腹するほど食べて、なお、12の籠にパン切れが残った。12という数は完全を意味する信仰的な数である。

韓国の詩人・金芝河は「飯が天です」という詩で「飯はみんなと一緒に食べるもの / 飯が天です / 飯が口に入る時 / 天を体に迎えます」と歌っている。主イエスが五つのパンと二匹の魚を取り、天を仰いで、それを祝福して裂き、配らせた。五千人ほどの群衆が食べて満腹し、余ったパン切れを集めると、十二籠もあったという奇跡は、神を体に迎えたということであろう。弟子たちにとって、心に深く刻まれた奇跡であった。

この奇跡は四つのすべての福音書に、マルコ福音書に二回、計五回も記されている。「神の国」のリアリティを体験した感激が、この奇跡を繰り返し、伝えることになったのではないか。